

ローマ人への手紙第七一回質問

6 しかし今は、私たちは自分を縛っていた律法に死んだので、律法から解かれました。その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

(ロマ七章六節／新改訳2017)

(問一) クリスチャンの「新しい生活の卓越性」を「古い生活」と比較して七項目を挙げて簡単に説明して下さい。



新しい生活の比類なき卓越性

(ロマ七章六節)

クリスチャンは古い生活と訣別し、全く新しい生活に入つた者たちです。古い生活と新しい生活との違いをよく知ることは、わたしたちの信仰生活がゆるぎなきものとなるために重要なことだと思います。

まず第一に、古い生活においては、神の律法に対して、わたしたちは外形的なかかわり方をしておりました。この場合、神の律法と言わずに道德と言ってもさしつかえないと思います。しかし、新しい生活においては、内的なかかわり方をしています。以前は、律法というものは、自分を律するものとして、外側にありました。しかし、今はわたしたちの心にそれはしるされておられ、わたしたちの生活それ自体が律法の役割を果たすようになりました。それは、パウロがコリント教会への手紙の中で、次のように述べていることで明らかです。

「あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によつてではなく、生ける神の御霊によつて書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書かれたものであることが明らかだからです。」⁽¹⁾

ですから、今では、神がわたしたちひとりひとりの心の中に働いて、みこころをなしてください。

「というのは、神はみこころのままに、あなたがたのうちに働き、志を立てさせ、わざを行なわせてくださるからである。」⁽²⁾

第二に、新しい生活と古い生活の違いは、新しい生活は御

霊によつて導かれていたので、あらゆることについて、古い生活の時とは比べものにならないほどの深い理解を持つことができるということ。それは、律法とその目的についても、また神の旧約の経綸におけるものと新約の経綸におけるものの相違についても、明らかな理解が与えられます。それは、わたしたちの心に掛けられていたおおいが取り除かれたからです。

「そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないように、顔におおいを掛けたようなことはしません。しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなつたのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読される時に、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによつて取り除かれるものだからです。かえつて、今日まで、モーセの書が朗読される時はいつでも、彼らの心にはおおいが掛かつているのです。しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。」

第三の違いは、古い生活では律法の文字に拘泥して、その精神を見失っていたのが、新しい生活では、その本当の意味についてわかり、それを守ることができるようになるということです。これは、主が山上の説教で教えておられるところでもあります。それは、マタイによる福音書五章二一—四八節で、具体的な例を挙げながら、説明しておられます。当時の律法学者やパリサイ派の人たちは、文字に拘泥して、その精神を無視しておりました。たとえば、殺人についての戒め

を考えてみますと、彼らは、実際に手を下して殺人をしなれば、それで「殺すな」という戒めを守っていると思つていました。しかし、彼らは律法の主眼点を見失つてしまつていました。というのは、これはただ単に殺人をしなればよいということではなく、自分の隣人に対して正しくあるか、また、隣人のいのちを愛しているかという重要な律法の問題、律法の中心点を見落としてしまつていたからです。ですから、主は「自分の兄弟に対して怒るもの」や「自分の兄弟に対して愚かと言う者」もまた殺人の罪を犯しているのだと断言しておられます。

とくに、この山上の説教の中で、主がはっきりと「あなたがたの敵を愛し、あなたがたを迫害する者たちのために祈れ」と仰せられた時、律法学者やパリサイ派の人たちは到底理解することができなかつたでしょう。彼らは文字に拘泥していたからです。しかし、キリストによつて明らかなる霊的目を与えられた者たちには、それがよくわかるのです。

第四の違ひは、古い人は神に対して、恐れを抱いていましたから、その恐れのために律法を守つていたのですが、新しい人は喜びと感謝と賛美の心で律法を守り、神に喜ばれる聖い生活をすることができます。神や地獄に対する恐れだけでなく、古い人は自分を喜ばせ、自己満足するために律法を守ろうとしていました。また、ほかの人と自分とを比較して、そこに満足感を味わつていました。ちょうど主が話されたあの譬の中の人物を思い出します。それは、ルカによる福音書一八章にしるされていますが、祈るために宮に行つたパリサイ

イ派の人と取税人の譬です。パリサイ派の人は、こう祈りました。「神よ。私はほかの人々のようにゆする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようでないことを感謝します。私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげています。」彼の祈りは感謝という形態はとっていますが、自己満足以外の何ものでもありません。彼の深い動機は自分を喜ばせています。彼は自分の罪の赦しを求めたわけでもありませんし、神の助けを求めたわけでもありません。これこそ、律法の下にある古い人の特徴です。しかし、新しい人は、主を喜ばせたいという願いで心が満たされています。御霊はいつも主の栄光を求められるからです。

第五の違いは、古い人の生活は、律法の下にあつて、「隷の靈」を持つている生活ですから、いつも重荷の下にあえていなければなりません。しかし、新しい人の生活は、もはやいかなる束縛からも解放され、自由にされました。ですから、新しい人であるクリスチャンにとって、「その命令は重荷とはなりません。」このことは、エルサレム会議の際、その決議書において、はっきりと「どんな重荷もあなたがたに負わせないことをよしとしました」としてしています。パウロはコリント教会への手紙の中で、次のようにしていますが、まさにこのことです。

「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」

わたしたちが結び合わされたお方は、すべてのすべてでい

らっしゃるお方です。これは、古い人にあつては、決して理解することのできなかつたことで、これこそわたしたちにとつて大きな励ましです。

第六の違ひは、古い人の生活にはいのちがありませんでしたが、新しい人の生活にはいのちが与えられているということです。パウロが、「文字は殺し、御霊は生かす」と言つた時、そのことを意味しておりました。また「わたしたちが肉によつて無力になつたために、律法ができなくなつていたことを、神はしてくださつた」としるしている時、全く同じことを言っております。

また、彼がテモテへの手紙の中で、「神が私たちに与えてくださったのは、臆病の霊ではなく、力と愛と自制の霊なのである」と書いてある時も、同じことを言っています。

ヨハネは、わたしたちクリスチャンには、世に勝つ力が与えられていると述べていますが、それこそ、御霊によつて新しいのちが与えられた者たちの大きな祝福です。

「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝つたのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです」

「あなたがたのうちにおられる方」とは御霊です。「この世のうちにいる、あの者」とは悪魔です。悪魔の力がどんなに強大であつても、わたしたちは恐れる必要がありません。御霊の神が勝利を勝ち取つてくださいます。わたしたちにはそのように強力な力が与えられているのです。

第七に、古い人と新しい人の違ひは、その結果が全く違ふ

ということです。古い人の生活は、いつも葛藤と失望と敗北の連続です。それは、悪魔の支配下にあるからです。そして、「死のために実を結んだ」のです。しかし、新しい人の場合はどうでしょうか。

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられて⁽¹³⁾生きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

最後の日、わたしたちクリスチャンは、みな完べきな人として、天において主にまみえることができます。それは、主がわたしたちの救いを完成してくださるから⁽¹⁴⁾です。

注(1)コリント教会への第二の手紙三章三節 新改訳。

(2)ピリピ教会への手紙二章一三節。

(3)コリント教会への第二の手紙三章二三―一六節 新改訳。

(4)ルカによる福音書一八章一一―一二節 新改訳。

(5)ローマ教会への手紙八章一五節。

(6)ヨハネの第一の手紙五章三節 新改訳。

(7)使徒たちの働き一五章二八節。

(8)コリント教会への第二の手紙三章一七節 新改訳。

(9)同書三章六節 新改訳。

(10)ローマ教会への手紙八章三節。

(11)テモテへの第二の手紙一章七節。

(12)ヨハネの第一の手紙四章四節 新改訳。

(13)コリント教会への第二の手紙三章一八節 新改訳。

(14)ピリピ教会への手紙一章六節。